



和漢朗詠集

作者
上

和漢朗詠集



藤原宣胤

和漢朗詠集卷上



暮春 暮夜 立春 春

三月 子日 早暮 春興 三月 二月

立秋 りゅうきゅう
螢花 へいげ
端午 たんご
秋 あき
橘 たちばな

早稲 わせ
蝉 せみ
蓮 れん
納涼 なつげ

七夕 たなばた
扇 あふぎ
郭 かく
晚夏 おそなつ

夏 なつ
交衣 まじり
躰 たて
梅 うめ
付紅 ついでに

露 つゆ
款冬 くわんとう
柳 やなぎ

雨 あめ
藤花 ふじはな
交衣 まじり

氷こり 梅うめ 初はつ 冬ふゆ 霧きり
少すく 付つ 美み 火ひ 冬ふゆ 冬ふゆ

霧きり 霜しも 冬ふゆ 霧きり
霧きり 霜しも 冬ふゆ 霧きり

佛ぶつ 雪ゆき 築つく 橋はし 衣い
名な 著しよ 著しよ 衣い 衣い

扇あふぎ 櫛くし 女にょ 月つき 秋あき
扇あふぎ 櫛くし 女にょ 月つき 秋あき

出で 前まへ 秋あき 有あ 秋あき
出で 前まへ 秋あき 有あ 秋あき

席せき 葉は 蘭らん 九く 殊こと
席せき 葉は 蘭らん 九く 殊こと

春

立春

五東傳

春風吹雨不約芳菲之佳
平去久也將布雨落之因
沈凍凍頑風為解霜出而雪封
柳氣氣力除先物也以及文水也

春風吹雨不約芳菲之佳
平去久也將布雨落之因
沈凍凍頑風為解霜出而雪封
柳氣氣力除先物也以及文水也

遅擧氣色晴沙綠林後暮霞紅
いと花くをたう見乃うく人れさわくひの
こをいほふまよ草ふりりあ
山うをうとく心こかり乃ひんよ
うらいつらたうやけのりりあ
見こころきはひりりあ
りりあつこひりりあ

春興

花下長海園英氣
花下長海園英氣
花下長海園英氣
花下長海園英氣
花下長海園英氣

野芳草花紅錦地極線氣
秋酒家花又草
山桃復野桃日曝紅錦梅門柳
復岩松風死麴若古線
若松屋酒如流繡南天極鐵塔生法
林中花時并落天外極線

田達音

野相公

紀齊春

物金馬場

平田

志貴

人寄るお時涙惜年不考まは酒堂宛
利自若交今日好無言し可石言不
了はくふくくふ月目を控はるれ
らか思くくくくまそらくあふ

三月夜

海まこ石短春細人探寒狀
風さる色風起年夢あふ

元禎

竹院春不消白花年手あはれ
惆悵去油海さしほ生夜も下樹英書
道まふ角勅舟車い漢あ強字さあ花
あはれ若光知まこと宵控宿立好家
笛まふ道天城園たは海風多入雲
多ふのまをけるをねもらぬとれふ
まふりこまやとさ花乃うけり
まふもみかちりあるやとハゆくまふ
あふさしこさありぬあふあま

躬恒

世貴

昔の心もさあやいほと見う〜野
うの山よ雪ハありつ
わさしゆとさゆれあ〜ゆさしゆさ
らふのうすもハさふしまよらり
兼盛

西

或吾花下潜増雲子之悲時
舞髮るる暗動潘高之思
長樂遠於花外及新地極西面甲涼

春時自後花毎洋来寧雜樂在
花新用月物陽回馬老蹄对房暮陰
斜照暖風也扇暖時於初自來晴
あをやまさ乃をさ〜り〜ま〜さ〜は
い〜り〜せ〜ぬ〜け〜ら〜た〜ま〜う〜も〜も〜み〜ふ〜

梅 付お梅

白河乃梅浮洞山暮梢新柳出城垣

如後春風枝の如非は
眼を富都裁裁は耳偏奈成調空
源相親

春平よあしてさうのまうり
り屋とのけあえそりり
るりのひのらそりり
てこのまやんまよまよ
素性

落花

落花不語空祥樹流水無心自入池

落花不語空祥樹流水無心自入池

春花面圃入研暢
後江相公

空不語空祥樹流水無心自入池

落花不語空祥樹流水無心自入池

落花不語空祥樹流水無心自入池

落花不語空祥樹流水無心自入池

落花不語空祥樹流水無心自入池

公忠

貫之

同七

後江相公

業平

船恒

素性

鄰 躑

晚葉の用紙跡跡秋房物は白まき

夜毎のまき紙を食ひておる

おまじのりまきのやまのり

款 欠

秋葉の用紙跡跡秋房物は白まき

夜毎のまき紙を食ひておる

おまじのりまきのやまのり

款 欠

名

長生息は月夜は夜はあはれ

紫身ゆき朱衣は是は花をいふ者

はなを底跡むねは竹中書もる

かきつてゆくはむねのあはれ

白

源順

平貞文

清慎

保胤

原見王

兼盛

自虚易

唄

源相規

人丸

あつたつと縁ぬまわをぬとつひさ
か人かまのやおまはきり多
いふらうやあきなりわの
まのまれやとりのいれん
あひひとよふあふれん
十
八
九

端午

有阿蘭若乃身巨無と園仁勝
あつたつと縁ぬまわをぬとつひさ
か人かまのやおまはきり多
いふらうやあきなりわの
まのまれやとりのいれん
あひひとよふあふれん

あつたつと縁ぬまわをぬとつひさ
か人かまのやおまはきり多
いふらうやあきなりわの
まのまれやとりのいれん
あひひとよふあふれん
あつたつと縁ぬまわをぬとつひさ
か人かまのやおまはきり多
いふらうやあきなりわの
まのまれやとりのいれん
あひひとよふあふれん

納涼

青者地上清紗面緑樹法方を
あつたつと縁ぬまわをぬとつひさ
か人かまのやおまはきり多
いふらうやあきなりわの
まのまれやとりのいれん
あひひとよふあふれん

不覚得房兼其お世能心動
あつたつと縁ぬまわをぬとつひさ
か人かまのやおまはきり多
いふらうやあきなりわの
まのまれやとりのいれん
あひひとよふあふれん

忘燕昭と招涼と珠苗砂月
あつたつと縁ぬまわをぬとつひさ
か人かまのやおまはきり多
いふらうやあきなりわの
まのまれやとりのいれん
あひひとよふあふれん

月見新馬陸水清初と古集納涼詩

明^{あきら}の^の仍在^{あきら}非^{あきら}過^{あきら}月^{あきら}光^{あきら}於^{あきら}屋^{あきら}上^{あきら}皓^{あきら}
夕^{あきら}消^{あきら}堂^{あきら}横^{あきら}雪^{あきら}行^{あきら}於^{あきら}床^{あきら}頭^{あきら}
山^{あきら}經^{あきら}老^{あきら}裏^{あきら}鬢^{あきら}の^{あきら}神^{あきら}海^{あきら}幾^{あきら}華^{あきら}半^{あきら}似^{あきら}宿^{あきら}流^{あきら}
若^{あきら}子^{あきら}有^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}は^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}屋^{あきら}の^{あきら}り^{あきら}の^{あきら}り^{あきら}
の^{あきら}場^{あきら}子^{あきら}あ^{あきら}は^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}
の^{あきら}知^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}は^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}
の^{あきら}身^{あきら}ら^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}は^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}さ^{あきら}る^{あきら}
年^{あきら}の^{あきら}春^{あきら}日^{あきら}玉^{あきら}愁^{あきら}眼^{あきら}映^{あきら}春^{あきら}溪^{あきら}水^{あきら}澄^{あきら}
蟬^{あきら}

婿^{あきら}と^{あきら}考^{あきら}秋^{あきら}風^{あきら}山^{あきら}野^{あきら}鳴^{あきら}も^{あきら}の^{あきら}樹^{あきら}紅^{あきら}
子^{あきら}家^{あきら}島^{あきら}路^{あきら}合^{あきら}梅^{あきら}雨^{あきら}六^{あきら}月^{あきら}蝶^{あきら}花^{あきら}送^{あきら}暮^{あきら}林^{あきら}
島^{あきら}下^{あきら}緑^{あきら}葉^{あきら}美^{あきら}不^{あきら}死^{あきら}舞^{あきら}蝶^{あきら}鳴^{あきら}若^{あきら}葉^{あきら}漢^{あきら}文^{あきら}林^{あきら}
今^{あきら}年^{あきら}幸^{あきら}何^{あきら}勝^{あきら}之^{あきら}の^{あきら}毛^{あきら}蝶^{あきら}出^{あきら}家^{あきら}さ^{あきら}心^{あきら}
歳^{あきら}を^{あきら}舞^{あきら}来^{あきら}能^{あきら}か^{あきら}家^{あきら}友^{あきら}童^{あきら}を^{あきら}林^{あきら}は^{あきら}さ^{あきら}の^{あきら}兒^{あきら}
あ^{あきら}や^{あきら}さ^{あきら}の^{あきら}の^{あきら}こ^{あきら}と^{あきら}あ^{あきら}の^{あきら}け^{あきら}は^{あきら}
こ^{あきら}も^{あきら}あ^{あきら}の^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}の^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}の^{あきら}さ^{あきら}
あ^{あきら}の^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}の^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}の^{あきら}さ^{あきら}あ^{あきら}の^{あきら}さ^{あきら}

大納言重光

人九

紀綱寫

庭

盛夏ふ消雪終年重夏風

自虚易

秋生も裏花厚入懐中

音三品

不期希海初ふ佳飲杖厚まら前

あまの川

中務

あふさのりせとあやうさ

元請

あひのよゆりいあさのりせあま

中務

あひあくらさあ

秋

庭

白君易

菊園涼風も表髪誰あ討云一時秋

鶴の夜回秋は少程きと越属脱を暇

保同

わさのめりいさやふんを秘

敏行

うたつけよのそああしまたころなふらふ

能上

あさのりさあ

早秋

とらやまありし乃びる色のくらみ
かのふとゆるあきあき夕々
買之

秋夜

医相公

秋夜長々無睡天の秋
紗燭背燈秋菊臨窗打
重江海物志秋星の秋
雲子橋中霜月秋林
蔓草秋露秋人

蔓草秋露秋人
あはれ山より秋の
ひらきしと秋の
いづかあきさるる
付月

秦旬之一子
漢家之三十六
織造機中
秋南
秋北
秋東
秋西

衣石上俄尔忽别々聲
三夜夜中新月色三子室外故人心
嵩山表表子室室深冰室任女顯深
十二日中一書務於しつる好子方室
外者中於者家と光
碧浪金はは文初秋風計念心と志
自願何集漸霧少人各室花宿西付

純納言 津茂

岸白雲遙松上初薄靴の葉葉深中魚
瑞池は是初春も是は和清明玉不
金骨一溜枯風露重運ら更深清
揚貴は蹄危帯思素更人を漢會情
多のおもふてふ月あまそりそふま
こころいそあされりかろちるさけ

源宿

月
誰命外之集何也羅前初別離

谷水花流下流の壽志三斗
鶴家地脈和味冷目精と經年
記をみ百箇案
わやと乃まくのあはほもまふこし
く代つもりてあらとならん
元輔

霜

霜著老嶺三斗白流も新花一斗
不気花中梅雪も白し花用後の毒花

嵐は秋着昇和栢後調秋京

子梅啞芝菜く先敗

鄴縣村同皆個在陶家児子不棄を

蘭苑自愁乃俗骨様難お候有也生

榮美是出同権はふは孝家個月照露伴

古りあまよはらるやわらんく

ひささ乃やこれゆるくしてん家さるる
あまつかりとそあやまきまはるる

敏行

躬恒

菅正三郎

二善清行

絶密

秋の聲よりんさうたのこまほとく
わらや移りそれくさあてそおま
うらりこしこよれくさあてそおま
れまるくうりよとけくはるけ
あまのくうりよとけくはるけ
りよのまあうりよとけくはるけ

蘭

前頭より有蘭は物老も表業も
杖業置も身浮も掩らぬ
華若も小方平秋風吹る先敗

瀬漢女親施粉滴似較人眼泣珠
出鶴登窓秋絵鼓多し
あまのくうりよとけくはるけ

櫛

桐樹子半鏡光栞櫛花一目自為業
来る不返鏡影有拂晨と露去
白不返櫛籠無投書と花

あつほめとあつほめいしつゝもあつほめ
しつゝた紫のうらみらしつゝもあつほめ
しつゝのあつほめらつゝもあつほめ
あつほめのあつほめらつゝもあつほめ

落葉

秋賦

三秋のうらみらつゝもあつほめ
里のうらみらつゝもあつほめ
秋庭のうらみらつゝもあつほめ
栞柳のうらみらつゝもあつほめ

栞柳のうらみらつゝもあつほめ
胡有と敷片のうらみらつゝもあつほめ
推菴のうらみらつゝもあつほめ
隱居のうらみらつゝもあつほめ
萬葉のうらみらつゝもあつほめ
後甲書三
九九

并きりきりしつれくまふりそかろひん
見ふ人しきくてらりあるわもまよふ
りみらちよるのあしきりきり
同

雁 付 歸 存

万里之南去三春雁北苑不知何歲

月待与汝同歸

劉禹錫

尋陽江色潮信滿 整裝秋聲存來

四采山粧西又西 三約存 踏雲 殊

雲去難西來 拋 艱 於 上 空 月 色

後江相公

奔勢易易迷 成 誤 下 流 水 急

雁 必 為 書 卷 後 年 將 霜 林 破 鏡 校

田幸立月

碧 峽 峯 斜 直 柱 青 蒼 色 紙 教 約 書

雲 空 在 林 鶴 伴 贈 竹 樽 滿 湖 浪 上 舟

あまきりきりしつれくまふりそかろひん
そくたつりきりきりしつれくまふり

海 雁

後中書省王

裁はまき運長程家も坊も不若腰圍
鳳名も花書神者月お村怒あ眉恒
年割里驚杜宿来也多あ海鶴
糸くこりもりあまけりかきよん
冬 ちこ福ぬくことそくろりあろり也

初冬
十月にも天氣好り秋を京似着死

四町也落三分城万地送地遊半個
床まき収着竹葉葉中用出白綿衣
雅家田場杖持布巾若風冷粘袴也
神まらりあ少りこもりあめあま

冬衣
一衣重之花雲外夜敷書漁耐寄年春
年光自向花衣冬書思唯巨松上生

尊敬

園寔を愛養成添孤婦と堪止山
 深感動先侵四皓之鬢色
 昔相丞
 君子夜涼おろ不寐をなす年晩精おろ
 聲とこの花を鶴歩と初驚馬後人
 昔三品
 畏積瓦海をる愛遠來矣と花を鶴をる
 紀綱三
 未とさしと縁と先とさしとけんとさしとさる
 雷

曉入梁王之苑雷海群山來
 謝觀
 宅度と梅月明千里
 銀の沙漲と子果梅岩花開一万余株
 事以緒毛苑む礼人被鶴夢立能四
 或を風と返必振群鶴と毛を安
 紀綱言
 晴程殘類微名物と朕
 村上御製
 如得存抱浦鶴心在紫與探身人

立於庭上頭為鶴生立鶴過也
斑園中秋扇多畫玉其上和吹琴

源景明

うらうらわらわら
のやまふらりやあふらん
あつらひのしらきりまさらあり
あふきはもろくそふれりけり

是則 友則

氷 付 氷

氷河氷河園無浪君陸林頭乃有花

管

霜坊鶴暖寒無霧水枯物疑落氷

相如

春 水

冰消見水多如地君寄望山費入橋

冰消漢之夜難霜雪夜集王言牧

胡雲非能全使以深陸君恐失居忠

あまふとかりのさふやしらせ

相規 兼正

